

県民参加 NPO等協働 通信

県土整備部では、本年3月に「県民参加の推進プログラム」を作成し、県民との協働による県土づくりについて、部を挙げて展開することとしています。

また、社会資本の整備やメンテナンスに当たっては、これまで以上にNPOなどとの協働を積極的に推進していきます。

このコーナーでは、県内の県民参加の活動事例やNPOなどとの協働事例を紹介します。



その1 県立花巻広域公園 ぎんがのもり夏まつり

- 事業名称 花巻広域公園利活用促進事業（地域活性化事業調整費）
- 事業期間 H15～
- 事業概要 花巻広域公園利活用促進のためのイベント、ワークショップの企画運営

花巻広域公園ぎんがのもりは、県民のレクリエーションの場として整備され、開園から23年が経過しました。しかし、年々施設が老朽化するとともに、利用者数も減少傾向にありました。そこで、平成15年度より利活用促進のためのイベントと住民参加型ワークショップを開催する事とし、経験と幅広いネットワークを期待してNPOと協働することになりました。

イベントは、海の日を「花巻広域公園の日」とし、屋台やフリーマーケット、ミュージックイベント等を行い、今年は2200人ものお客様にご来場いただきました。今回のイベントは、昨年度からワークショップに参加されている県民の方も実際に出店し、これからの利活用促進活動へのステップにもなったようです。

また、ワークショップでは、昨年参加した県民の皆さんから提言していただいた利活用促進策を実践するための準備をすすめているところです。

これから11月まで月一回の様々なイベントや、ワークショップ等を行う予定です。



インタビュー

特定非営利活動法人
花巻文化村協議会
竹花 清



『県民と行政とNPOと』

—花巻広域公園「ぎんがのもり」における協働事業—

花巻広域公園ぎんがのもり利活用促進事業も2年目の今年はいよいよ実践編となります。常時30名以上のコアメンバーによる5つの公園利活用プロジェクトも始動します。ワークショップは非常に困難なプロセスを伴うことがありますが、本事業においてこれは杞憂でした。なぜなら一般県民の中から自主的に参加された様々な職業を持つ参加者どなたもが、公園等公共施設における課題は行政のみならずわれわれ自身の問題として積極的に関わり共に行動しなければ解決しないことを十分に理解していたからです。

昨年度は雨に見舞われたイベントも今年の夏まつりはようやく天候に恵まれ多くの来場者で賑わいました。あきらめずに事業を継続した県とわれわれNPOやボランティアスタッフの努力も報われました。今年は毎月開催して様々な利活用の可能性を検証しながら、県民や地域にとってより設置効果の高い公園となることを目指します。今後もぎんがのもりを応援してください。



ぎんがのもり夏まつり概要

- 開催日時 16年7月19日 10:00～16:00
- 来園者数 約2200人
- イベント内容
 - ✦ 屋台村 24店
 - ✦ フリーマーケット 29店
 - ✦ 地産地消フェア 6団体
 - ✦ ミュージックフェスティバル 5組
 - ✦ 県産材フェア（カヌー体験教室） 50名
 - ✦ おもしろたんけんたい 31名
 - ✦ 利活用プロジェクト検討委員会（ワークショップ） 32名
 - ✦ 花巻地方出前産直（花巻農業改良普及センター主催） 11団体

その2

親しみのある諸葛川を 考えるワークショップ

1. 事業の目的

諸葛川の基幹河川改修事業は、昭和48年から実施されてきており、今年度で当初の計画区間 L=約5.6 km (雫石川合流点から市兵衛川合流点まで)の改修が平成15年度で完了しておりますが、その間、諸葛川周辺では、急速な都市化の進展に伴い自然環境が失われつつあります。

そこで、県の新たな公共事業(壊す公共事業)のモデルとして、水辺環境再生事業を導入し、都市化が進む諸葛川周辺の中で、比較的的自然環境が残っている穴口地区の河川公園周辺において、既設のコンクリート護岸などを周辺環境と調和する護岸とすることや、ビオトープなどの生物の生息環境を整備することにより、更なる自然環境の創出と周辺住民の憩いの場を創出するものです。

計画の立案にあたっては、ワークショップなどの開催により住民と協働による計画策定を進め、事業実施のみならず、完成後の河川利用の促進と地域住民の方々に愛着を持ってもらえる川を目指していきます。



3. これからの予定

第3回ワークショップで、全体計画の概要がまとまったことから、今後、詳細設計を実施し、今年秋には、工事に着手する予定です。

そして、今回、出前ワークショップに参加していただいた月が丘小学校の5年生が卒業するまでの間に、現地がある程度の形が出来ている状況にする予定です。

4. おわりに

今回の事業では、計画策定段階だけでなく、工事実施中なども住民の工事への参加や見学会の開催など、できるだけ、地域住民と一緒に事業を実施し、親しみのある諸葛川をつくり上げていきたいと考えています。



2. 出前ワークショップ(in 月が丘小学校)

今回の計画策定にあたっては、これから地域を担っていくことになる子供たちの意見も取り入れていくために、計画区域のすぐ側にある盛岡市立月が丘小学校の5年生2クラス、約80人程を対象として、総合学習の時間を利用した出前ワークショップを6月22日(火)開催しました。

ワークショップでは、約80人が8班に分かれて「諸葛川で何をしたいか、何があればいいか」について話し合ってもらい、1枚の模造紙に言葉と絵でまとめてもらい、最後に各班毎に発表してもらいました。

2時間という限られた時間の中でしたが、みんな非常に手早く作業を進め、大人たちよりも立派に意見の取りまとめが行なわれました。

月が丘小学校では、4年生の総合学習で、諸葛川をテーマに川の流れの強さや動植物などをテーマに学習しているとのことで、諸葛川への知識も豊富で、今回の5年生は、最も適した学年でした。

今回のワークショップは、IBCテレビの取材を受けた他、今年諸葛川をテーマに学習する4年生3クラスも先輩たちの作業状況を見学しました。

